



建交労



2019年10月19日
 建交労神奈川県南支部
 2019年秋季年末闘争
 推進ニュース 59 通算 158 号
 発行責任者 佐藤 章

横浜南部労連第30回定期大会を開催！ 建交労は組織建設・争議支援で討論に参加

横浜南部労連は10月19日午後1時30分から第30回の節目となる定期大会を横浜市神奈川区内の建設横浜本部会館会議室で開催しました。

大会には14組織から代議員・役員・来賓等30名余が参加をして、議長に選出された神奈川土建の辻代議員によって議事が進行されました。

主催者あいさつに立った古山議長は、相次ぐ巨大台風などによる自然の猛威で日本列島に深刻な被害が広がっていることへの不安と自然に対する人間の力の限界を述べると同時に、人間災害ともいえる安倍内閣の暴走政治に対しては労働者・国民のたたかいで押し返すことができることを、最賃闘争の前進や夏の参議院選挙での野党共闘による成果などを強調し、この闘争を担う横浜南部労連の強化を呼びかけました。

つづく来賓のあいさつでは横浜労連の神田事務局長が「台風被害の救済や最賃闘争を前進させるためにも中小零細事業者の支援を強めていく」と発言し、日本共産党の蓮池磯子区委員



主催者を代表して挨拶をする古山啓一議長

長からは「林横浜市長による学校給食の否定やカジノ誘致に反対するたたかいの強化」が訴えられました。

そのあと、中澤事務局長による経過報告・2019年度運動方針案と古山議長による財政報告・予算案などが提起され休憩をはさんで討論に入りました。

発言のトップに立った建交労の赤羽代議員は「トラック現場の実態を報告してトラック労働者を組織する決意を表明すると同時に三昭運輸分会の争議支援を訴えて討論に参加しました。つづいて年金者組合の土志田代議員からは横浜市のカジノ誘致を阻止するたたかいが呼びかけられました。さらに横浜南部労連を支える多様な組織から積極的で多様な報告や訴えなどがつづいて全体では10名の代議員が発言をして討論を終了しました。中澤事務局長による討論のまとめがおこなわれて採決に入り、すべての議案が満場一致で採択されたのに続いて新役員が選出され新役員から力強い決意と抱負が



新役員紹介（上）と団結がんばろう（下）語られ、第30回定期大会は成功裏に閉会しました。

※前号（No.58）の推進ニュース発行の日付が10月6日になっていましたが10月19日の誤りでした。